

サイエンスとテクノロジーで 夢をかたちに

公益社団法人 応用物理学学会

The Japan Society of Applied Physics

ダイバーシティ&インクルージョン委員会

Diversity & Inclusion Committee

<https://www.jsap.or.jp/gender-equality>



ダイバーシティ&インクルージョン委員会の活動概要

Committee's activities for Diversity & Inclusion

活動目標

ダイバーシティ&インクルージョンを推進することにより、個が尊重され、各々の才能を十分に発揮できる社会の実現を目指し、様々な活動を行っています。応用物理学学会内外での活動を通じて、男女に限らず幅広い分野での多様性推進、社会の活性化に寄与したいと考えています。

主な活動

応用物理学学会では、様々なダイバーシティ&インクルージョン事業に先進的に取り組んできました。そのひとつが学会講演会期間中の託児室の運営です。2005年の春季・秋季学術講演会より設置された託児室は、毎回多くの方にご利用いただいており、講演会事業の一環としてすっかり定着しました。このような活動は、会員が所属する大学や企業においても、子供を連れて学会へ参加することへの理解が前進することにも貢献しています。



公開シンポジウム・無料チュートリアルセッションの開催

毎年、春季学術講演会でダイバーシティ&インクルージョン(D&I)に関わる公開シンポジウムを対面とオンラインのハイブリッドで開催しています。シンポジウムでは、男女に限らず誰もが能力を発揮し活躍できる社会の実現を目指し、男女・文理・職種・国籍の観点からD&Iについて考えたり、若手研究者のキャリアパスや海外と日本の研究環境の違い等、様々なテーマを取り上げおり、パネルディスカッションで参加者との意見交換も行なっています。

<最近のシンポジウムテーマ>

2021年：時代の変革期こそ応用物理分野を輝かせよう
2022年：ジェンダー・イノベーションを通して考える応用物理の男女共同参画
2023年：多様な視点から進むダイバーシティ&インクルージョン
2024年：若手・氷河期世代・女性研究者の声はどこまで届いているか？

また、今年度からD&Iに関わるトピックスを取り上げて学びディスカッションを行う場として、無料チュートリアルセッションを秋季学術講演会中に開催しました。

<チュートリアルセッションのテーマ>

2024年：D&Iを目指す事例紹介：「大学入試への女子枠導入」を経験して

表彰事業

女性研究者研究業績・人材育成賞（小館香椎子賞）を設け、2009年から2021年にかけて、研究業績部門12名、研究業績部門（若手）18名、人材育成部門6名を表彰してきました。2022年には、小館賞を発展させる形で、D&Iの推進を通じて応用物理分野の活性化を図ることを目的として、応用物理学学会ダイバーシティ&インクルージョン賞を設立しました。



国際交流

2002年にInternational Union of Pure and Applied Physics (IUPAP) - International Conference on Women in Physicsに日本物理学会と合同で参加・講演したのを皮切りに、定期的に同会議やGS (Gender Summit)等に参加し、講演を行っています。

応用物理学学会D&I委員会の活動紹介の他、各種データに基づく分析・考察を通じて、D&Iの現状と課題について国内外へ発信しています。



応用物理学学会とは？

工学と物理学の接点にある最先端の研究課題、学際的なテーマに取り組み、日本の科学技術を牽引しています。会員数は約2万人で、大学・公的研究所の会員に加え、民間企業の研究開発部門に所属する技術者・研究者が重要な役割を果たしています。年2回の学術講演会は国内最大級で、海外の研究者も含めて約1万3千人（春秋合計）もの参加者が集まります。英国物理学学会出版局 (IOP Publishing)と提携して国際的英文論文誌JAPとAPEXを刊行しています。



女子中高生の理系進路選択支援

女子中高生の理系進路選択の支援を目的として、2008年から「女子中高生夏の学校」へ参加しています。キャリア講演、サイエンスアドベンチャーでの実験、ポスターセッション等を通して多くの女子中高生の皆さんと交流し、応用物理の魅力を伝えています。



学会活動への女性参加の状況



応用物理学学会における女性比率

応用物理学学会員の女性比率は7%程度で、あまり高くはありませんが、会員に占める女性の割合・会長・副会長・理事等の役職者および代議員の女性比率のいずれも年々高まっており、2024年は役職者、代議員ともに過去最高の値となっています。今後、女性会員の活躍がますます広がっていくことを期待しています。

